

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の学科の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホウジン カンサイガイコクゴダイガク 学校法人 関西外国語大学							
フリガナ大学の名称	カンサイガイコクゴダイガク 関西外国語大学 (Kansai Gaidai University)							
大学本部の位置	大阪府枚方市中宮東之町16番1号							
大学の目的	建学の理念に則り、公正な世界観にもとづき時代と社会の要請に応じていく実学の教授研究を通して、国際社会に貢献できる豊かな教養を備えた人材を育成することを目的とする。							
新設学部等の目的	高度で実践的な英語運用能力の向上を図るとともに、英語圏をはじめとする諸外国・地域の歴史や文化に関する幅広い理解、国際感覚、数理・データサイエンスの理解、ならびに豊かな専門知識を育むことにより、デジタルツールを駆使し、国際社会で活躍できる人材の育成を目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	外国語学部 (College of Foreign Studies) 英語・デジタルコミュニケーション学科 (School of English and digital communications) 計	年	人	年次人	人	学士 (英語学)	令和5年4月 第1年次	大阪府枚方市中宮東之町16番1号
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>令和4年4月 収容定員の変更に係る学則変更届出予定 <u>英語キャリア学部 (令和4年4月届出予定)</u> <u>英語キャリア学科小学校教員コース [定員増] (20) (令和5年4月)</u></p> <p>外国語学部 <u>英米語学科 [定員減] (△305) (令和5年4月)</u></p> <p>令和4年4月 学部の設置届出予定 国際共生学部国際共生学科 (70) (令和5年4月) (3年次編入学定員) (30) (令和5年9月)</p>							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
	外国語学部 英語・デジタルコミュニケーション学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位		
		49科目	45科目	18科目	112科目			

教員組	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
新設	外国語学部 英語・デジタルコミュニケーション学科		7 (7)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	59 (15)	令和4年4月届出 予定
	国際共生学部 国際共生学科		7 (7)	4 (4)	6 (6)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	13 (13)	
	計		14 (14)	7 (7)	8 (8)	0 (0)	29 (29)	0 (0)	- (-)	
既設	英語キャリア学部 英語キャリア学科		7 (7)	5 (5)	9 (9)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	27 (29)	
	英語キャリア学科小学校教員コース		8 (8)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	6 (6)	
	外国語学部 英米語学科		49 (49)	45 (45)	30 (30)	9 (9)	133 (133)	0 (0)	146 (165)	
	スペイン語学科		10 (10)	8 (8)	5 (5)	3 (3)	26 (26)	0 (0)	27 (27)	
	英語国際学部 英語国際学科		22 (22)	22 (22)	5 (5)	3 (3)	52 (52)	0 (0)	49 (50)	
	計		96 (96)	82 (82)	49 (49)	15 (15)	242 (242)	0 (0)	- (-)	
合計			110 (110)	89 (89)	57 (57)	15 (15)	271 (271)	0 (0)	- (-)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計			
	事務職員		150人 (150)		29人 (29)		179人 (179)			職員については、併設短期大学部と共通
	技術職員		0 (0)		15 (15)		15 (15)			
	図書館専門職員		8 (8)		19 (19)		27 (27)			
	その他の職員		0 (0)		140 (140)		140 (140)			
	計		158 (158)		203 (203)		361 (361)			
校地等	区分	専用	共用		共用する他の学校等の専用		計			
	校舎敷地	0㎡	160822.61㎡		0㎡		160822.61㎡			中宮キャンパス全体 共用は関西外国語大学短期大学部（必要面積16,000㎡）
	運動場用地	0㎡	71965.08㎡		0㎡		71965.08㎡			
	小計	0㎡	232787.69㎡		0㎡		232787.69㎡			
	その他	0㎡	8733.22㎡		0㎡		8733.22㎡			
	合計	0㎡	474308.60㎡		0㎡		474308.60㎡			
校舎	専用	共用		共用する他の学校等の専用		計				
	21,237.34㎡ (21,237.34㎡)	56,012.86㎡ (56,012.86㎡)		5,913.55㎡ (5,913.55㎡)		83,163.75㎡ (83,163.75㎡)			中宮キャンパス全体 共用は関西外国語大学短期大学部（必要面積7,650㎡）	
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設				
	151室	93室	10室	7室 (補助職員 人)		5室 (補助職員 人)			中宮キャンパス全体	
専任教員研究室	新設学部等の名称			室数						
	外国語学部英語・デジタルコミュニケーション学科			12室					中宮キャンパス全体238室 うち空室27室	
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体 図書576,824[246,449] 雑誌2,841[818]		
	外国語学部 英語・デジタルコミュニケーション学科	86,500[33,500] (81,237[32,258])	500 [330] (463 [313])	30,000 [29,600] (27,763 [27,702])	6,500 (6,671)	400 (358)	0 (0)			
	計	86,500[33,500] (81,237[32,258])	500 [330] (463 [313])	30,000 [29,600] (27,763 [27,702])	6,500 (6,671)	400 (358)	0 (0)			

図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数		「大学全体」			
		18,120 m ²		2,066 席		838,000					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
		14,453.63m ²		テニスコート		アーチェリー練習場					
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	-	-			
	共同研究費等		2,500千円	2,500千円	2,500千円	2,500千円	-	-			
	図書購入費	1,000千円	500千円	500千円	500千円	500千円	-	-			
	設備購入費	100,000千円	5,000千円	5,000千円	3,000千円	3,000千円	-	-			
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	1,400千円	1,150千円	1,150千円	1,150千円	千円	千円					
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、私立大学等経常経費補助金 等								
大学の名称		関西外国語大学									
学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
既設大学等の状況		年	人	年次人	人		倍				
		英語キャリア学部 英語キャリア学科	4	120	-	480	学士 (英語キャリア)	0.94 0.95	平成25年度	大阪府枚方市中宮東之町16番1号	
		英語キャリア学科 小学校教員コース	4	30	-	120	学士 (教育)	0.92	平成25年度	同上	
		外国語学部 英米語学科	4	1170	3年次 300	5280	学士 (英語学)	1.00 1.01	昭和41年度	同上	
		スペイン語学科	4	250	25	1050	学士 (スペイン語学)	0.97	昭和41年度	同上	
		英語国際学部 英語国際学科	4	700	3年次 100	3000	学士 (英語国際)	1.00 1.00	平成26年度	大阪府枚方市御殿山南町6番1号	
		外国語学研究所 博士前期課程 英語学専攻	2	15	-	30	修士(英語学) 修士(英語教育)	0.35 0.30	昭和48年度	大阪府枚方市中宮東之町16番1号	
		言語文化専攻	2	20	-	40	修士(言語文化) 修士(日本語学) 修士(国際共生コミュニケーション)	0.38	昭和51年度	同上	
		博士後期課程 英語学専攻	3	3	-	9	博士(英語学) 博士(英語教育)	0.33 0.16	昭和54年度	同上	
		言語文化専攻	3	3	-	9	博士(言語学) 博士(言語文化) 博士(日本語学) 博士(文化人類学) 博士(比較文化学)	0.50	昭和54年度	同上	
		大学の名称		関西外国語大学短期大学部							
		学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		既設大学等の状況		年	人	年次人	人		倍		
英米語学科	2	800	-	1600	短期大学士 (英語学)	0.99	昭和28年度	大阪府枚方市中宮東之町16番1号			

附属施設の概要	<p>名 称 国際文化研究所 目 的 文化人類学に関する調査研究、特に各国の文化の比較研究を行い、世界諸民族の文化の友好親善に貢献することを目的とする。 所在地 大阪府枚方市中宮東之町16番1号 設置年月 昭和47年4月 規模等 インターナショナル・コミュニケーション・センターの4階の一部を使用</p>	
	<p>名 称 人権教育思想研究所 目 的 人権問題及び人権教育思想について研究調査し、基本的人権の確立に努めることを目的とする。 所在地 大阪府枚方市中宮東之町16番1号 設置年月 平成6年4月 規模等 インターナショナル・コミュニケーション・センターの4階の一部を使用</p>	
	<p>名 称 教職教育センター 目 的 本学「教職課程」履修者を対象にした教員養成に係る支援活動および小・中・高等学校等との教育研究連携事業を通じた教育現場での諸課題の教育研究等をにより、幅広く学内外の教育政策・事業全般の推進に貢献することを目的とする。 所在地 大阪府枚方市中宮東之町16番1号 設置年月 平成15年9月 規模等 インターナショナル・コミュニケーション・センターの1階の一部を使用</p>	
附属施設の概要	<p>名 称 イベロアメリカ研究センター 目 的 スペイン、ポルトガルならびにラテンアメリカを対象とする研究を行い、実践的な外国語能力と国際社会に通用する知識と情報を学内外に供することを目的とする。 所在地 大阪府枚方市中宮東之町16番1号 設置年月 平成22年4月 規模等 インターナショナル・コミュニケーション・センターの4階の一部を使用</p>	

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要															
(外国語学部英語・デジタルコミュニケーション学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門必修科目	Introduction to Academic English	1前	2				○		1	1					兼2
	Essay Writing I	1後	2				○				1				兼1
	Essay Writing II	2前	2				○				1				
	Essay Writing III	2後	2				○				1				
	Academic Reading I	1前	4				○		3						兼1
	Academic Reading II	1後	4				○		3						兼1
	Academic Reading III	2前	4				○		2	1					兼1
	Academic Reading IV	2後	4				○		2	1					兼1
	Communication in English I	1前	2				○				2				兼1
	Communication in English II	1後	2				○				2				兼1
	Communication in English III	2前	2				○		1		1				兼2
	Communication in English IV	2後	2				○		1						兼2
	English Presentation and Discussion A	3前・後	4				○								兼2
	English Presentation and Discussion B	3前・後	4				○		1						兼1
小計（14科目）	—	—	40	0	0	—	—	—	5	1	2	0	0	兼8	
専門選択科目	英語学概論	1前		4			○								兼1
	言語学研究A	1後		4			○								兼1
	言語学研究B	1後		4			○								兼1
	言語学研究C	1後		4			○		1						
	言語分析	1前		4			○		1						
	英語文学概論	1前		4			○								兼1
	イギリス文学史	1前		4			○								兼1
	アメリカ文学史	1後		4			○								兼1
	英語文学作品研究	3後		4			○								兼1
	Business English	2前		4			○								兼1 ※1
	Hospitality English	3後		2				○							兼1 ※1
	Essential Digital Skills	2前		2				○							兼1 ※1
	Multimedia Technology	2後		2				○							兼1 ※1
	English for Technology Careers	3前・後		4				○							兼1 ※1
	Topics in Business and Sciences	3前・後		4				○							兼1 ※1
	デジタルリテラシー	1通		2				○							兼1 ※1
	データリテラシー	1前・後		2				○							兼1 ※1
	コンピューターと社会	1前・後		4				○		1					※1
	メディア・スタディーズ	2前・後		4				○			1				※1
	プログラミング	2前・後		4					○	1					※1
	アートサイエンス	3前・後		4					○						兼1 ※1
	デジタルシティズンシップ	3前・後		4				○							兼1 ※1
	デジタル社会の情報処理論	3後		4				○		1					※1
	ビジネス統計	1前・後		2				○							兼1 ※1
	ビジネス数学	1前・後		2				○			1				※1
	経営学概論	1前		4				○							兼1
	経済学概論	1前		4				○			1				
データ分析経済学	2前・後		4				○			1				※1	
会計学	2前		4				○							兼1	
現代国際政治史	1前		4				○							兼1	
ホスピタリティ	1前		4				○							兼1	
英語文化圏概論	1前		4				○							兼1	
文化人類学	1前		4				○							兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(外国語学部英語・デジタルコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
全学 共通 教育 科目	デンマーク語	2前		2			○								兼1	集中	
	スウェーデン語	2前		2			○								兼1		
	ハンガリー語	2前		2			○								兼1		
	フィンランド語	2休		2			○								兼1		
	アラビア語	2前		2			○								兼1		
	ラテン語	2前		2			○								兼1		
	総合実習A (インターンシップ)	1・2・3前・後		2				○							兼1		※3
	総合実習B (インターンシップ)	1・2・3前・後		2				○							兼1		※3
	総合実習C (インターンシップ)	1・2・3前・後		2				○							兼1		※3
	総合実習D (インターンシップ)	1・2・3前・後		2				○							兼1		※3
	総合実習E (インターンシップ)	1・2・3前・後		1				○							兼1		※3
	総合実習F (ボランティア)	1・2・3前・後		2				○							兼1		※3
	総合実習G (ボランティア)	1・2・3前・後		2				○							兼1		※3
総合実習H (ボランティア)	1・2・3前・後		2				○							兼1	※3		
総合実習I (ボランティア)	1・2・3前・後		2				○							兼1	※3		
総合実習J (ボランティア)	1・2・3前・後		1				○							兼1	※3		
小計 (52科目)		—	0	134	0		—			1	1	0	0	0	兼31		
合計 (112科目)		—	40	296	0		—			7	3	2	0	0	兼59		

学位又は称号	学士 (英語学)	学位又は学科の分野	文学関係
--------	----------	-----------	------

卒業要件及び履修方法	授業期間等
------------	-------

<p>専門教育科目</p> <p> 専門必修科目 40単位</p> <p> 専門選択科目 52単位(*)</p> <p>全学共通教育科目 32単位</p> <p>* : 卒業要件単位52単位を超えて修得した単位数は、全学共通教育科目に充当することができる。</p> <p>(履修科目の登録の上限 : 各 Semester 間24単位)</p> <p>備考※1 : ※1の科目の中から、3科目以上を修得しなければならない。</p> <p>備考※2 : 留学準備教育のための授業・留学中の学修等について単位認定を行う科目。</p> <p>備考※3 : 国内外のインターンシップやボランティア活動における学修 (事前・事後指導含む) 等について単位認定を行う科目。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 学年の学期区分</td> <td style="width: 50%;">2 学期</td> </tr> <tr> <td>1 学期の授業期間</td> <td>15 週</td> </tr> <tr> <td>1 時限の授業時間</td> <td>90 分</td> </tr> </table>	1 学年の学期区分	2 学期	1 学期の授業期間	15 週	1 時限の授業時間	90 分
1 学年の学期区分	2 学期						
1 学期の授業期間	15 週						
1 時限の授業時間	90 分						

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語・デジタルコミュニケーション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 必 修 科 目	Introduction to Academic English	<p>本科目は、アカデミックな内容を効果的に学習するために、英語学習の根幹をなす文法の基礎力と応用力を向上させることを目標とする。</p> <p>多岐にわたる専門分野の英語文献を読み解いたり、複雑な内容を英語で理路整然と発信したりするには、確かな文法知識が不可欠である。授業では品詞、句、節などの理解をはじめ、複雑な文構造や論理的関係を分析する力を磨き、難解な英文の内容を正確に理解できる力の育成を目指す。</p>	
	Essay Writing I	<p>The goal of this class is to equip students to use written English in academic and professional settings. Students will write several short assignments, such as emails, letters, and academic response paragraphs. They will develop the ability to recognize the types of information which are found in clear paragraphs and will practice using such information in their own writing. They will learn about the writing process (brainstorming, organizing, drafting, editing, and revising). They will also learn to provide useful feedback on their own and peer's writing.</p> <p>本科目は、アカデミックな場面や社会において必要となるライティング力習得を目標とする。様々な種類の情報を正しく認識し、正確に書いて表現することを目指す。短い文章や、Eメール、手紙、感想文などを書くことを通じて、情報の整理、組み立て、下書き、編集、校正などのライティングのプロセスも学ぶ。また、学生同士のピアフィードバックを行うことにより、より効果的に文章力向上をはかる。</p>	
	Essay Writing II	<p>This course continues the development of skills begun in Essay Writing I. Students will write longer responses to clear prompts or questions. They will learn to support their opinions with information beyond their first-hand experience. Students will learn to develop ideas, organize information, and address grammatical and vocabulary problems through the writing process. They will produce at least one multiple paragraph letter and a multiple paragraph academic essay.</p> <p>本科目は、「Essay Writing I」で習得したスキルのさらなる向上を目指す。長めの文章を書くことを通じて、より説得力のある文章を書く力を向上させる。ライティングプロセスのなかで、アイデアを発展、情報の整理、正しい文法・語彙の使い方を学ぶ。この授業のなかで最低ひとつの複数パラグラフで構成される手紙とアカデミックなエッセイを作成する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語・デジタルコミュニケーション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門必修科目	Essay Writing III	<p>This course continues developing skills begun in Essay Writing I and II. Students will practice strategies for writing clearly in English. Students will write longer assignments. They will produce an essay or paper using information researched from two or more sources. They will also practice using English in technology mediated communications, such as blogs, emails, discussion boards, or wikis.</p> <p>本科目は、「Essay Writing I」および「Essay Writing II」習得したスキルのさらなる向上を目指す。より長い文章を正確に英語で書く方法を学ぶ。最低でも二つ以上の情報源から収集された情報を使って長文の作成をしたり、様々なメディア（ブログやメール、ウィキ、掲示板など）で使用される英語の文章の作成にも挑戦する。</p>	
	Academic Reading I	<p>本科目は、社会科学や人文科学分野の文献を読み解くために必要な技能や知識の習得を目標とする。</p> <p>文学作品、批評、評論、新聞記事など様々な文献を精緻に理解することで、世界の諸問題への理解を深化させ、異文化に関する教養を高める。同時に、読解力向上に焦点を合わせつつ総合的な英語力向上を目指す。歴史、心理学、哲学、宗教からジェンダーや民族、環境問題まで幅広い題材の素材を通し、基礎的知識を習得すると同時に、物事を捉える多様な視点について学ぶ。</p>	
	Academic Reading II	<p>本科目は、Academic Reading Iに引き続き、社会科学や人文科学分野に関する文献の読解に求められる技能や知識を修得することを目標とする。</p> <p>文献の読解を契機に様々な概念や理論を学習し、読解力向上に焦点を合わせつつ総合的英語力の更なる向上を図る。歴史、心理学、哲学、宗教、ジェンダーや民族、環境問題などのより難易度の高い素材を使用する。文献内容の信憑性を検討しながら、上記分野の教養を深める。またアナロジーなど書き手が用いる手法についても理解し、文献を批判的に検討する力も修得する。</p>	
	Academic Reading III	<p>本科目は、Academic Reading IIに引き続き、社会科学や人文科学分野に関する文献の読解に求められる技能や知識を修得に加え、英語圏で活躍できる英語力を修得することを目標とする。</p> <p>文献の読解を契機に様々な概念や理論を学習し、読解力向上に焦点を合わせつつ総合的英語力の更なる向上を図る。歴史、心理学、哲学、宗教、ジェンダーや民族、環境問題など幅広い題材を扱うが、より高度でより長い素材に取り組み、情報を正確かつ批判的に読み解き、論理的な矛盾点を指摘できるだけの思考力も養う。</p>	
	Academic Reading IV	<p>本科目は、Academic Reading IIIの発展科目である。社会科学や人文科学分野に関する文献の読解に求められる技能や知識を修得に加え、英語圏で活躍できる英語力を修得することを目標とする。</p> <p>文献の読解を契機に様々な概念や理論を学習し、読解力向上に焦点を合わせつつ総合的英語力の飛躍的な向上を図る。歴史、心理学、哲学、宗教、ジェンダーや民族、環境問題などに関する高度な学術的な論考を批判的に読み解き、その意義の検証や問題点の検討を含め、グローバルレベルの知見獲得を目指す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語・デジタルコミュニケーション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 必 修 科 目	Communication in English I	<p>This course develops students' ability to use English for communicative purposes. In particular, students will become more fluent, confident and accurate in understanding and producing spoken English. Students will also use their English reading and writing skills to develop vocabulary and familiarity with the language across a variety of topics. They will practice English in the classroom, simulating a variety of contexts and situations.</p> <p>本科目は、バラエティに富んだ様々なシチュエーションを想定した演習を行うことにより、話し言葉を正確に理解し、自信をもって流暢に英語で話すことができるよう、英語でのコミュニケーションスキル向上を目指す。また、リーディングを通じて語彙力向上や様々なトピックに親しむことにより、英語でのさらなるコミュニケーション力アップを図る。</p>	
	Communication in English II	<p>This course continues the development of students' ability to use English for communicative purposes which began in Communication in English I. Students will become more fluent, confident and accurate in understanding and producing spoken English. Students will develop vocabulary and familiarity with the language across a variety of topics by using their reading and writing skills. They will practice English in the classroom, simulating a variety of contexts and situations.</p> <p>本科目では「Communication in English I」で身につけたコミュニケーション力のさらなる向上を目指す。バラエティに富んだ様々なシチュエーションを想定した演習を行うことにより、話し言葉を正確に理解し、自信をもって流暢に英語で話すことができるよう、英語でのコミュニケーションスキル向上を目指す。また、リーディングを通じて語彙力向上や様々なトピックに親しむことにより、英語でのさらなるコミュニケーション力アップを図る。</p>	
	Communication in English III	<p>This course continues to develop students' ability to use English for communicative purposes from the first year. Students will become more fluent, confident and accurate in understanding and producing spoken English. Students will continue to use their English reading and writing skills to develop vocabulary and familiarity with the language across a variety of topics. They will practice English in the classroom, simulating a variety of contexts and situations.</p> <p>本科目では1年次に身につけたコミュニケーション力のさらなる向上を目指す。バラエティに富んだ様々なシチュエーションを想定した演習を行い、ライティングやリーディングを通じた語彙力の向上や様々なトピックに親しむことにより、英語でのさらなるコミュニケーション力アップを図る。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語・デジタルコミュニケーション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門必修科目	Communication in English IV	<p>This course continues to develop students' ability to use English for communicative purposes. Students will increase their fluency and accuracy in understanding and producing spoken English. They will be confident in their English speaking and listening skills. Students will continue to use their English reading and writing skills to develop vocabulary and familiarity with the language across a variety of topics. They will use their English skills to find information about a topic and incorporate that information into an informative presentation.</p> <p>本科目では「Communication in English III」で身につけたコミュニケーション力のさらなる向上を目指す。バラエティに富んだ様々なシチュエーションを想定した演習を行い、ライティングやリーディングを通じた語彙力の向上や様々なトピックに親しむことにより、英語でのさらなるコミュニケーション力アップを図る。また、英語力を活用して情報収集し、効果的な英語でのプレゼンテーションにつなげる。</p>	
	English Presentation and Discussion A	<p>This course provides skills and strategies for presenting information and participating in discussions in English. Students will develop their speaking fluency and their listening and notetaking skills. Each student will research aspects of selected topics, organize their notes, create useful visual aids, present the information and respond to questions from their classmates and teacher. In discussions, students will prepare examples and support for their opinions, ask questions, and assume different roles.</p> <p>本科目は英語でのプレゼンテーションやディスカッションに必要なスキルと方法の習得を目的とする。流暢なスピーキング力向上やリスニング力の向上に加え、ノートテイキングのスキルも学ぶ。様々なトピックについて調べ、結果を整理し、プレゼンテーション用資料に仕上げ、プレゼンテーションを行って教員や学生からの質問にも対応する。またディスカッションでは、意見や質問などを取りまとめたり、様々な役割を担ったり、ロールプレイングの学習活動も行う。</p>	
	English Presentation and Discussion B	<p>This course continues developing skills and strategies for presenting information and participating in discussions in English. Students will research topics, organize their ideas, and present arguments. The course will also provide instruction in listening to lecture content in English, discussing that content, and supporting one's opinions with that lecture material.</p> <p>本科目は「English Presentation and Discussion A」に引き続き、英語でのプレゼンテーションやディスカッションに必要なスキルと方法の習得を目的とする。流暢なスピーキング力向上やリスニング力の向上に加え、ノートテイキングのスキルも学ぶ。様々なトピックについて調べ、結果を整理し、プレゼンテーション用資料に仕上げ、プレゼンテーションを行って教員や学生からの質問にも対応する。またディスカッションでは、意見や質問などを取りまとめたり、様々な役割を担ったり、ロールプレイングの学習活動も行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語・デジタルコミュニケーション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 選 択 科 目	英語学概論	本科目は、英語を中学・高校において長年学習してきた学生が、言語科学の見地から英語を理解することを目標とする。 具体的には、英語の発音の仕組み・発音の規則（音声学・音韻論）、語形変化・語句と語句の関係（形態論・統語論）、語句や文の意味（意味論・語用論）などを検討する。また、英語学を通して言語学の諸分野（英語の歴史的变化、英語の地域的・社会的変種、談話分析、異文化コミュニケーション、自然言語処理、言語創発、言語獲得、第二言語習得等）を学び、現代英語のより深い理解を促進する。さらに、これらを通して個別言語としての英語だけでなく言語そのものの理解を深めることを目指す。	
	言語学研究A	本科目は、言語の音声を研究対象とする音声学と音韻論を学ぶ。 音声学では、主として発音の仕組みが扱われ、音声の物理的な音波としての側面なども学ぶことができる。音韻論では、様々な音声の特徴を基に発音の規則、つまり音韻規則を学び、それに関連する音韻論の基本的な概念と分析方法を学ぶ。	
	言語学研究B	本科目は、言語の基本的な単位である形態素や語を研究対象とする形態論と、語句をまとめて節や文を組み立てる統語論を学ぶ。 形態論では、語形変化や語形成の仕組みなど語の内部構造などを体系的、理論的に扱う形態論の基本的な概念と分析方法を学ぶ。統語論では、節や文の構造や様々な文法現象を体系的、理論的に扱う統語論の基本的な概念と分析方法を学ぶ。	
	言語学研究C	本科目は、言語によって示される意味を研究対象とする意味論と具体的な文脈における文の使用を扱う語用論を学ぶ。 意味論では、語や文といった言語形式が伝えている意味を扱う意味論の基本的な概念と分析方法を学ぶ。語用論では、言語形式によって伝えられている意味に加え、具体的な文脈中で言葉をどう使用するかという観点から、話し手や聞き手といった言語形式以外の要素によって伝えられている文脈の意味も対象として扱う語用論の基本的な概念と分析方法を学ぶ。	
	言語分析	英語学・日本語学・スペイン語学各概論、および、言語学研究A-Cにおいて学んだ知識に基づき、実際に様々な言語現象を分析することを目的とする。 一連の分析活動として、対象となる言語現象の特定、データ収集、調査、分析、結果の発表等が挙げられる。英語、日本語、スペイン語の現象だけでなくフランス語等の様々な言語現象を取り扱ったり、個別言語の歴史的变化、地域的変種、社会的変種を分析をしたりすることもある。また、音声や文字により意思疎通を行う言語だけでなく手話等の言語現象も分析の対象とする場合もある。	
	英語文学概論	本科目は、イギリス文学・アメリカ文学のみならず、英語で書かれた多様な文学作品を題材に、基本的な文学理論を学び、作品を読み解く方法を学ぶ。 初学者を意識し、たとえば同じ題材でも詩・劇・小説・映画ではどう表現が異なり、印象が異なるか、について考察する。また文学作品とそれが映画化されたものとを比べ、作者と映画監督の意図を比較することも可能である。	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語・デジタルコミュニケーション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 選 択 科 目	イギリス文学史	本科目は、イギリス文学の歴史を概観する。単に時代別に作家名と作品名を暗記するのではなく、ある作家が生きた時代の特性とその作家の個性、そして作品の個性を結びつけて、イギリス文学の流れと伝統を学ぶ。 時代別にできるだけ多くの作家の作品に触れて、さまざまな作家の文体や各時代の特徴的な英語表現も学ぶ。	
	アメリカ文学史	本科目は、建国期から現代までのアメリカ文学の歴史を概観する。アメリカ文学史はイギリスほど長くないが、実に多様な文学作品が豊富に生み出されており、時代・地域・社会・政治・経済的背景と文学作品の関係に目を向け、アメリカ文学史の全体像を学ぶ。 授業ではテキストのみならず、各種の映像教材も積極的に活用し、原作との比較も行う。	
	英語文学作品研究	本科目は、英語で執筆された文学作品を作家別、あるいはテーマ別に数冊取り上げ、詳しい作品分析を行う。 文学作品を研究する場合は、その作家の人生や思想、あるいは時代精神にまで立ち入ることが不可欠である。したがって単にテキストを読むだけでなく、作家の人となりや作品が生み出された時代背景にも注目して授業を行う。	
	Business English	本科目は、ホテル業界や航空業界における様々なビジネスの現場で役立つ英語を運用する能力を身につけることを目標とする。 各現場で必要と考えられる語彙や表現といった英語知識を学び、実践的な運用能力を養うための訓練が行われる。また、ホテル・エアラインといったホスピタリティ業界において必要なビジネスに関する知識も身につける。また、旅行業界や流通業界における様々なビジネスの現場で役立つ英語を運用する能力を身につけることを目標として講義が行われる。各現場で必要と考えられる語彙や表現といった英語知識を学び、実践的な運用能力を養うために訓練が行われる。また、旅行業務や流通業務を行う際に必要な基礎的な知識やビジネススキルの習得をめざす。	
	Hospitality English	本科目は、ビジネス分野におけるネゴシエーション（交渉力、交渉術）の理論としくみを学ぶ。この分野は、ビジネスコミュニケーションやビジネス・ネゴシエーションとも呼ばれ、論理的な思考と方法論に基づくコミュニケーション力と問題解決能力の基礎を習得することを目標とする。	
	Essential Digital Skills	本科目では、デジタルツールをグローバル社会で、効果的に活用するために必要な基本的スキルの学びを通じて、関連する表現や語彙に関する英語力を身につけることを目標とする。また、インターネットやマルチメディアに関する技術に関連した英語の文献、書籍、記事等から、これらの本質的な知識を学ぶとともに、インターネット上でのプライバシー、アイデンティティ、セキュリティの保護について学ぶ。	
	Multimedia Technology	本科目では、音声・画像データのデジタル化を含む、マルチメディアコンピューティングとテクノロジーの基礎を学ぶ。基本的な技術を学ぶことを通じて、メディア形式、オンライン配信に関連する著作権や倫理上の問題についても学ぶ。英語で関連記事を精読し、クラス内でディスカッションを行うことで、マルチメディアテクノロジーについて理解を深めるとともに、マルチメディアコンピューティングに関する英語力を修得することを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語・デジタルコミュニケーション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 選択 科目	English for Technology Careers	<p>本科目は、テクノロジーに関する英語力を身に付けるための学修を行い、テクノロジーに関連する記事を精読しリサーチすることで、言葉の意味や使用方法等の語彙力を高め、専門知識を身に付けることを目標とする。</p> <p>また、デジタル分野におけるプレゼンテーションやディスカッション等をおこない、コンピュータサポート、ウェブデザイン、マルチメディア、デスクトップパブリッシング、ITセキュリティ、ネットワーク管理等を取り扱う技術者と英語でコミュニケーションを図ることができる力を身に付けることを目指す。</p>	
	Topics in Business and Sciences	<p>本科目は、読解とディスカッションを通して、ビジネスや科学分野に関連するトピックを検討することで読解力、発信力の向上を目標とする。</p> <p>英語オンリーという環境において、学習活動に取り組み、様々な視点から検討し、他者の意見を評価しながら自身の考えを表現していく。また、論理的かつ批判的な思考活動を通して、ビジネスや科学分野に関連するコンセプトやテーマを認識し、精通することを目指す。さらに、幅広い学術分野で使用される汎用的な語彙を学習することでアカデミックな語彙力を高めることにも重点を置く。</p>	
	デジタルリテラシー	<p>本科目は、コンピューターを扱う上で必要となる基本的な知識を身につけ、情報処理に関する効率的な操作方法を実習を通じて体得することを目標とする。</p> <p>春学期は、コンピューターを扱う上で知っておくべき知識を習得する。演習ではタイピング練習によってキーボード入力をトレーニングし、ワープロソフト（Word）を用いてレポートやビジネス文書作成技能を身につける。</p> <p>秋学期は、プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いたスライド作成について学習する。また、表計算ソフト（Excel）を用いて表やグラフの作成、データベースの活用方法を習得する。</p>	
	データリテラシー	<p>本科目は、データリテラシーとして、①データを適切に読み解く力、②データを適切に説明する力、③データを扱うための力、この3つの力を身に付けることを目標とする。</p> <p>データを適切に読むために、データの種類や集計方法、相関と因果など統計に関する基本的な理論を学習する。データを適切に説明するために、データ表現、データの比較、データの可視化などを学習する。データを扱うために、データの集計、並び替え、データ解析などを学習する。</p>	
	コンピューターと社会	<p>我が国が目指している未来社会Society5.0は、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会である。本科目では、未来社会に向け、ビッグデータを踏まえたAIやロボットが我々の生活をどのように変えるのか、情報伝達方法の歴史からどのようにコミュニケーション方法が変化したのか等、コンピューターと社会の関わりについて学習する。</p>	
	メディア・スタディーズ	<p>本科目は、各種メディアの成り立ちとその時代背景など、メディアに関する歴史的・社会的基礎知識を学ぶ。技術の進化にともなうて、メディアはどう変化し、どのように利用され、またどのような問題が生じたのか、そして、その問題解決策としてどのような提案が期待されているのか。多角的な視点でメディアについて学習し、デジタル・メディア社会を人と人のとのコミュニケーションにとって実りあるものとするために、メディアに関する知識をどう活用できるか見極めることができるようになることを目指す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語・デジタルコミュニケーション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 選択 科目	プログラミング	本科目は、「デジタルリテラシー」で学んだ知識を踏まえて、プログラミング実習を中心に行う。統計解析向けのプログラミング言語を用いて、データを適切に処理・分析し、データの特徴を数値化または視覚化する技法を身につけることを目標とする。	
	アートサイエンス	デジタル化の進展は芸術界にも大きく影響を与えており、近年ではテクノロジーを駆使し、動きやインタラクティブ性、ARやVRなどが加わったアートが生まれている。本科目では、グラフィックデザインや動画コンテンツの作成等を学び、現代アートの技術に触れることを目標とする。	
	デジタルシティズンシップ	デジタル化が進む今日の社会の一員として責任ある行動をとるためには、「デジタル・シティズンシップ」のスキルが必要だと言われています。デジタルシティズンシップとは、「情報技術の利用における適切で責任ある行動規範」を言う。本科目では、インターネットによってつながったデジタル世界における生活、学習、仕事の権利と責任、機会を理解し、安全で合法的倫理的な方法で行動するための要素を学ぶ。	
	ビジネス統計	各種の統計データを的確に扱う能力は、ビジネス現場における英語のプレゼンテーションやコミュニケーションでも不可欠の素養である。その最初のステップは、手元にある統計データから的確に事実を読み取る技量を身につけることである。そのためには、統計データがどのような手続き（分析・記述手法）によって作成されたのかを理解できなければならない。本科目では、ビジネス系科目を履修する際に必要となる基本的な統計知識を身につけることを目標とする。	
	デジタル社会の情報処理論	この科目では、「ビジネス数学」と「プログラミング」等で学んだ知識を踏まえて、デジタル社会で必須の数学である微積分・線形代数の基礎知識の学修と、プログラミングの機械学習への応用など、デジタル社会の情報処理における基礎知識と実践技法の修得を目標とする。ここで微積分と線形代数など、大学レベルの基礎数学の知識は、数理・データ科学の理解にとどまらず、今後のあらゆる情報処理の基礎知識の理解に有用である。またプログラミングの機械学習への応用は、ニューラルネットワークコンソール等の簡易型ビジュアル言語を用いて行う。これは今後のデジタル社会で、あらゆる分野に応用されるであろう「学習」（機械学習）の原理と仕組みを、基礎から学ぶ上で有用である。	
	ビジネス数学	英語学習において文法や構文の知識が基本であるのと同様、経済データの解析やビジネスにおける経営判断の基礎は数字である。数字をどれだけ読みこなせるかが、それぞれの現場における生産性を決定するといっても過言ではない。他方、経済学・経営学で頻繁に用いられるモデル分析にあっても基礎的な数学の知識は欠かせない。本科目では、実践を意識し、両分野で必須となる数学の基礎を、実例を多用しながら学んでいく。単に解法や計算に習熟するだけでなく、数字や数式の背後にある意味を的確に捉える力を身につけることを目標とする。	
	経営学概論	経営組織に属して実務に携わるということは、企業経営にかかわる困難な課題や複雑な問題に自ら立ち向かうということである。本科目では、企業システムや経営戦略、およびマーケティングなどの経営学の基礎知識の学習から、企業の海外進出戦略やM&Aなどの企業の国際経営の議論と問題点を分析する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語・デジタルコミュニケーション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 選 択 科 目	経済学概論	本科目では、経済学の基礎理論を学習し、実際に起こっている様々な経済現象を適切に分析する能力を養成する。また、ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済、国際交通論、および金融論といったより発展的な講義の前提となる知識を獲得することを目標とする。	
	データ分析経済学	本科目は、「ビジネス統計」「ビジネス数学」の発展科目として、データ分析を行う上での理論的な裏付けと、社会にあふれるデータをつなぎ合わせ、分析するための実務的な方法論を学ぶ。経済理論に基づき実際のデータを処理することで、日々の経済行動について定量的に把握することができるようになることを目標とする。	
	会計学	英語が世界共通言語として用いられているように、ビジネスの分野において世界共通して用いられているのは簿記である。したがって、簿記はグローバルにビジネスの世界で活躍するために必要不可欠の知識となる。 本科目では、簿記の用語や手法を丁寧に解説し、問題を解くことにより、企業の中で起こった事象をどのように記録し、まとめる必要があるのか、そしてその記録からどのような情報を得ることができるのかを学ぶ。また、ビジネスの世界でグローバルに活躍するためには、簿記の用語を英語で理解しておくことも必要であるため、講義の中で簿記において用いられる用語を英語でも解説し、ビジネスの中で用いられる英語の知識も深める。	
	現代国際政治史	本科目は、国際政治を歴史的な文脈から概観・分析することを目標とする。 20世紀になり激増した国民国家 (the nation-state) を主要な主体とする国際政治の枠組みとその変遷、それと密接に絡む外交、軍事、経済などの分野における問題、つまり勢力均衡、同盟、戦争、革命、ナショナリズム、経済体制、イデオロギー、核兵器、技術革新といった諸問題を概観する。	
	ホスピタリティ	本科目では、サービスとは何か、心からの親切なおもてなしを意味するホスピタリティとは何か、上手な話し方、聞き方などコミュニケーション能力の高め方、異文化間のコミュニケーション、エチケットとマナー、美しい日本語・敬語の使い方、更には近年ますます重要性を増しているホスピタリティ・マネジメント、CS（顧客満足）経営の考え方を学ぶ。	
	英語文化圏概論	本科目は、北アメリカ、オセアニアに包含される国々、およびイギリスといった英語圏の歴史と文化を学ぶ。 専門的見地をもって対象国、及びサブ・リージョンについて学んでいくための幅広い基本的知識を身に付け、世界での位置づけや特徴を理解することを目指す。なお、その切り口は、文化人類学、民俗学、民族学、歴史学、社会学、文化・芸術・音楽・宗教などのように、担当者の専門分野に応じて多様である。	
	文化人類学	本科目は、人の行動・行為・活動により形成された「文化」に焦点を当て、文化人類学だけでなく自然人類学など避けることのできない関連分野の基本概念や方法論に基づき、「人間とは何か」を理解することを目標とする。理論のみならず、各種フィールドワーク事例や研究事例、また映像・音声・画像・地図などの補助教材の積極的な活用を通して世界各地の文化に触れ、文化人類学の基本的な考え方を学習し、人間の普遍性と多様性を見つめながら異文化理解の基盤を構築することをめざす。	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語・デジタルコミュニケーション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 選 択 科 目	比較文化研究	本科目では世界の様々な地域の文化形態を特定のテーマに沿って通時的・共時的に比較対照し、各文化の固有性と人間文化の多様性・相対性について考察する。 広義の文化とは、一定のカテゴリーの人びと、典型的には一定の地域に暮らす人びとが共有する生活様式であり、習慣・法律・儀式・道徳・倫理・社会規範・技術などが含まれる。狭義の文化とは、人間の精神活動を表出したもの、あるいはその行為である。具体的には、音楽・美術・演劇・ダンス・スポーツ・文学・思想・映画・建築など多岐にわたるが、本科目ではどれかに焦点をあて、その分野において比較対照的アプローチによる理解を進める。	
	民俗学	本科目では、民俗学の研究史・方法論・実践について、歴史地理学や文化人類学・民族学などの隣接科学の視点も視野に入れながら学ぶ。 民俗学は民族文化を明らかにしようとする学問であるが、その中心的素材は民間伝承や伝説である。グローバル化が進行する中、日本文化の理解は必要不可欠になっており、民俗学の意義は深まっている。とりわけ文字データのみ依存せず、「聞き書き」によるオーラルデータを利用して近代以降の日本の生活様式に迫る民俗学的手法は、インタビューによる異文化理解に通じるものがある。	
	宗教学	本科目は、人間にとってきわめて重要な宗教現象について、客観的で歴史とエビデンスにもとづいた理解を深めることを目標とする。厳密な意味での宗教学は神学でも護教的な学問でもなく、19世紀後半にヨーロッパで始まった、経験科学的に宗教現象を探究する学問である。多様な宗教を対象とし、比較宗教学・宗教現象学・宗教人類学・宗教社会学・宗教心理学などのアプローチがある。	
	海外事情研究 A	本科目は、留学先大学における人文科学系の学修を念頭に、その準備教育科目として位置付ける。本科目を履修することなく留学先大学において人文科学系の科目を修得し、当該科目が開設されていない場合に、「海外事情研究A」として単位認定を行う。留学先大学における講義、演習内容、授業時間数、成績などを学生ごとに、さらには科目ごとに個別に勘案した上で単位認定を行う。	
	海外事情研究 B	本科目は、留学先大学における人文科学系の学修を念頭に、その準備教育科目として位置付ける。本科目を履修することなく留学先大学において人文科学系の科目を修得し、当該科目が開設されていない場合に、「海外事情研究B」として単位認定を行う。留学先大学における講義、演習内容、授業時間数、成績などを学生ごとに、さらには科目ごとに個別に勘案した上で単位認定を行う。	
	海外事情研究 C	本科目は、留学先大学における社会科学系の学修を念頭に、その準備教育科目として位置付ける。本科目を履修することなく留学先大学において社会科学系の科目を修得し、当該科目が開設されていない場合に、「海外事情研究C」として単位認定を行う。留学先大学における講義、演習内容、授業時間数、成績などを学生ごとに、さらには科目ごとに個別に勘案した上で単位認定を行う。	
	海外事情研究 D	本科目は、留学先大学における社会科学系の学修を念頭に、その準備教育科目として位置付ける。本科目を履修することなく留学先大学において社会科学系の科目を修得し、当該科目が開設されていない場合に、「海外事情研究D」として単位認定を行う。留学先大学における講義、演習内容、授業時間数、成績などを学生ごとに、さらには科目ごとに個別に勘案した上で単位認定を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語・デジタルコミュニケーション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 選 択 科 目	海外事情研究 E	本科目は、留学先大学における自然科学系の学修を念頭に、その準備教育科目として位置付ける。本科目を履修することなく留学先大学において自然科学系の科目を修得し、当該科目が開設されていない場合に、「海外事情研究E」として単位認定を行う。留学先大学における講義、演習内容、授業時間数、成績などを学生ごとに、さらには科目ごとに個別に勘案した上で単位認定を行う。	
	Academic Project	本科目は、Academic Seminar I・IIに準ずる科目であり、担当教員の専門分野に応じた教材・書籍の学習を通して、その分野における専門的な知識と理解を深めることを目標とする。必ずしも大学院進学を前提とせず、教室内外での議論や発表を通して、独自性のある意見の構築をめざす。	
	Academic Seminar I	本科目は、大学院進学を視野に入れつつ、担当教員の専門分野におけるテーマについての学習と議論や発表を通して、そのテーマについて深く研究を行う。同時に学生は自主的に自らの研究テーマを見つけ、そのテーマについて教員の指導を受けながら理解を深める。	
	Academic Seminar II	本科目は、Academic Seminar Iの発展科目である。本科目は、大学院進学を視野に入れつつ、担当教員の専門分野におけるテーマについての学習と議論や発表を通して、そのテーマについて深く研究を行う。同時に学生は自主的に自らの研究テーマを見つけ、そのテーマについて教員の指導を受けながら理解を深める。	
	卒業研究 I	特定の指導教員の承認のもと、各自が設定したテーマに基づいて研究を行い、その成果を卒業論文などの具体的な「かたち」に仕上げていくのが卒業研究である。卒業研究 I は、一年もしくはそれ以上にわたって継続される長期的な研究プロセスの基礎段階にあたる。	
	卒業研究 II	本科目は、卒業研究 I に続き、長期的な研究プロセスの後半部分にあたる。具体的には、既に卒業研究 I で得られたある程度の調査結果を、論文のレベルに引き上げる作業が中心となる。特に大学院を含む研究機関などを目指す場合は、これらのプロセスを経ることによって、能力・気力ともに長期間の研究活動に耐えられることを大学内外に向けて示すことになる。	
全学 共 通 教 育 科 目	哲学	本科目では、思想の歴史をさかのぼり、人間や世界に対するさまざまな思想を紹介するとともに、哲学的にもものを捉える力、いいかえれば偏見に左右されず論理的にもものを考える力を習得する。	
	人権問題論	本科目では、性差別、人種差別、障害者差別、部落差別、民族差別などに加え、児童労働、環境問題と差別、戦争と人権などを取り上げる。さまざまな差別の実態を知り、人権の尊重、差別の克服について考察する。人権という観点から世界を捉え直し、偏見に支配されない公正な思考力と世界観の習得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語・デジタルコミュニケーション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学 共通 教育 科目	憲法	本科目は、日本国憲法に関する基礎的な法解釈論を習得すること、リーガルマインド、法的思考力、客観的思考力を養うことを目標とする。 「基本的人権」に関する講義が中心となるが、各人権内容の概説にとどまらず、判例や裁判例を用いることにより判例法による理論の構築を目指す。初等中等教育に関する憲法問題についても学ぶ。	
	民法	本科目は、法律学を学んだことのない学生も理解できるように、具体的な問題を通じて民法の全体像を概観する。民法は私たちの生活に関する最も基本的な法律で、取り扱う問題の多くは、私たちの生活に身近なものである。例えば、ネット通販で起こるトラブルの解決策、事実婚と正式な婚姻の法律上の違いなど、身近な問題を通じて民法がどのようなルールを定めているのかを明らかにする。	
	労働関係法	本科目では、労働関係法の基礎知識を教える。企業や官庁などにたずさわる人々の間に起こる争いごとの解決方法、さらに、企業などにおける働き方を制度化するためのルールなどについて教授する。実際の社会生活において起こり得る様々な事象を、法的知識に基づいて的確に判断し、行動するための能力を養成する。	
	政治学	本科目は、政治学の基本的な概念に基づいて現代日本政治の理論と現実を平易に解説する。具体的には、政策がどのようなイシューとして設定され、どのようなアクターと影響力の下で、政府や国会において立案・決定されるのか、また政党はどのような役割を持つのかを政治学の手法を用いて理論的・実証的に分析する。	
	グローバル・アース	近年、地球規模の環境問題などを受け、持続可能な社会の実現に向けた取組が進められている。しかし、地球市民として運命共同体であること意識はまだ薄く、世界では紛争が後を絶たず、貧富の格差も広がっている。本科目では、地球と多様な生物について幅広く学び、「地球市民」の一員としての理解を深めるとともに、多様な環境問題に積極的に取り組むことを目指す。	
	数学	本科目は、数学の楽しさや数理的処理の便利さを実感するとともに、数学と日常生活の関わりの深さについて理解を深め、日常生活での様々な事象に対して数学的な見方や考え方を適用する力を身につけることを目標とする。 小学校における「算数」と中学校以降の「数学」との接続を意識した演習、さらに教員採用やSPIにも対応できるよう、確かな数学の基礎力を育む。	
	心理学	心理学は人間の心と行動を科学的に探究する学問である。本科目では、人間の理解に必要な基礎的心理学（感覚・知覚・記憶・情報処理・学習・思考・言語など）と、実際の生活場面での心理学（臨床心理学・社会心理学・対人コミュニケーションなど）について学ぶ。講義においては過去の心理学研究の紹介だけにとどまらず、具体的問題の体験を通して“こころ”とは何かについても考える。心理学の基本的な知識を習得することで、科学的なものの見方、個人及び個人と社会・環境との関わりの中での“こころ”と行動の理解を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語・デジタルコミュニケーション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学 共通 教育 科目	科学と暮らし	本科目では、今どんな環境問題が起こっていて、それがどのような原因で発生しているか、どのような解決方法があるかなど、人間が自然の一員として持続可能な共生を実現していくことについて考える。大気や水などの暮らしの中の課題から地球温暖化などグローバルな課題へと展開することで、様々な環境問題について理解を深めるとともに、自身の問題としてその解決に向けた実践力の向上をめざす。	
	文学	本科目では、文学作品における基本的な表現技法や文学論を学ぶ。作者、成立、構成、表現、文学的意義など文学作品読解のために必要な基本的知識と技術を身につけ、作品の鑑賞を行う。文学作品を味わい、自分なりの批評ができるようになることを目指す。	
	総合科目A	本科目では、人文科学や社会科学、自然科学といった学問分野を横断的・学際的に取り扱う。特定の学問的な分類に収めず、各担当教員の専門分野を中心に講義を行う。ユニークな科目も存在し、そのような科目を包含して、「総合科目」と称する。	
	総合科目B	本科目では、人文科学や社会科学、自然科学といった学問分野を横断的・学際的に取り扱う。特定の学問的な分類に収めず、各担当教員の専門分野を中心に講義を行う。ユニークな科目も存在し、そのような科目を包含して、「総合科目」と称する。	
	総合科目C	本科目では、人文科学や社会科学、自然科学といった学問分野を横断的・学際的に取り扱う。特定の学問的な分類に収めず、各担当教員の専門分野を中心に講義を行う。ユニークな科目も存在し、そのような科目を包含して、「総合科目」と称する。	
	総合科目D	本科目では、人文科学や社会科学、自然科学といった学問分野を横断的・学際的に取り扱う。特定の学問的な分類に収めず、各担当教員の専門分野を中心に講義を行う。ユニークな科目も存在し、そのような科目を包含して、「総合科目」と称する。	
	総合科目E	本科目では、人文科学や社会科学、自然科学といった学問分野を横断的・学際的に取り扱う。特定の学問的な分類に収めず、各担当教員の専門分野を中心に講義を行う。ユニークな科目も存在し、そのような科目を包含して、「総合科目」と称する。	
	総合科目F	本科目では、人文科学や社会科学、自然科学といった学問分野を横断的・学際的に取り扱う。特定の学問的な分類に収めず、各担当教員の専門分野を中心に講義を行う。ユニークな科目も存在し、そのような科目を包含して、「総合科目」と称する。	
	総合科目G	本科目では、人文科学や社会科学、自然科学といった学問分野を横断的・学際的に取り扱う。特定の学問的な分類に収めず、各担当教員の専門分野を中心に講義を行う。ユニークな科目も存在し、そのような科目を包含して、「総合科目」と称する。	
	総合科目H	本科目では、人文科学や社会科学、自然科学といった学問分野を横断的・学際的に取り扱う。特定の学問的な分類に収めず、各担当教員の専門分野を中心に講義を行う。ユニークな科目も存在し、そのような科目を包含して、「総合科目」と称する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語・デジタルコミュニケーション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学 共通 教育 科目	総合科目Ⅰ	本科目では、人文科学や社会科学、自然科学といった学問分野を横断的・学際的に取り扱う。特定の学問的な分類に収めず、各担当教員の専門分野を中心に講義を行う。ユニークな科目も存在し、そのような科目を包含して、「総合科目」と称する。	
	スポーツ健康科学	本科目では、テニス、バスケットボールなどの実技種目を教材として、積極的に健康づくりに挑戦するとともに、その理論と実践の融合をはかることによって基礎体力を向上させ、身体運動のメカニズムを学ぶ。	
	スペイン語Ⅰ	スペイン語の入門科目。 スペイン語の発音、語彙、文法、会話表現をバランス良く学習し、スペイン語によるコミュニケーション能力の基礎を身につける。またスペイン語圏の文化についても学ぶ。	
	スペイン語Ⅱ	スペイン語Ⅰを修得した学生を対象とする科目。 スペイン語の発音、語彙、文法、会話表現をバランスよく学習し、スペイン語によるコミュニケーション能力の基礎を身につける。	
	中国語Ⅰ	中国語の入門科目。 中国語の学習においては、正しい発音を習得することが、重要な課題である。本科目では、中国語特有の声調、及び中国語表音ローマ字（ピンイン文字）を正確に発音できるまで徹底的に訓練する。また、基本的な文型や簡単な挨拶、日常生活でよく使う表現を学び、中国語に慣れ親しむ。	
	中国語Ⅱ	中国語Ⅰで習得した知識をもとに、ピンインと声調の正確な発音の復習、単語や会話文の発音をさらに徹底的に訓練する。自己紹介や挨拶の仕方、買い物や旅行、趣味や食事の場面での会話など、日常生活でよく使われる表現を学び、中国語での会話が流暢にできるようになることを目指す。また、生活習慣や物の考え方、文化などについても触れて親しむ。	
	中国語Ⅲ	本科目は、中国語Ⅰ・Ⅱで習得した知識をもとに、習得した中国語の基礎をより確実なものとしつつ、さらに高度な表現を学習し、やや複雑な内容の文章を「読み解く」能力を身につけ、自分の意見を中国語で正確に「伝える」能力を身につけることを目指す。	
	フランス語Ⅰ	フランス語の入門科目。 ビデオ教材を用い、発音、語彙、会話表現、文法をバランスよく学習し、フランス語によるコミュニケーション能力の基礎を習得をめざす。またフランス語圏の文化についても紹介する。なおフランス語Ⅰではテキストの前半部分を、フランス語Ⅱで後半部を続けて学習する。	
	フランス語Ⅱ	フランス語Ⅱでは、フランス語Ⅰで習得した知識をもとに、さらにフランス語運用能力を高めることを目標とする。 日常生活のさまざまなシチュエーションにおいて要求される定型表現を聞き取り、発話できることを目指す。文法については、初級文法の学習を修了するとともに、フランス語の全体像を把握する。同時に、言語の背景となるフランス語圏の文化についても紹介する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語・デジタルコミュニケーション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学 共通 教育 科目	ドイツ語Ⅰ	ドイツ語の入門科目。 ドイツ語Ⅰでは、ドイツ語の正確な発音を習得し、文法の初歩、基本的な語彙を学ぶ。また平易なドイツ語を理解して、使用できることを目標とするため、実際のイメージが湧く教材を使い、映像も併用しながら実践的な語学学習を行う。ドイツ語検定5級レベル合格を目指す。	
	ドイツ語Ⅱ	ドイツ語Ⅱでは、ドイツ語Ⅰで習得した知識をもとに、過去形・完了形などから接続法まで、初級文法の後半を学習する。ドイツ語特有の文構造・語順を習得し、簡単なドイツ語文を理解し運用できる能力を獲得し、ドイツ語検定3・4級合格を目指す。さらに、ドイツ語文化圏の事情（歴史・年中行事）についても学習する。	
	イタリア語Ⅰ	イタリア語の入門科目。 イタリア語Ⅰ、Ⅱを通して、その文法構造を理解し、作文力を養うことで言語運用につなげる。前半部であるイタリア語Ⅰでは、文法の基本事項を学習し、基礎力をつけるために数多くの練習問題に取り組む。また基本構文の理解に基づき、習得した文法や語彙を応用し伊作文に取り組むことで、言語運用能力の向上を目指す。	
	イタリア語Ⅱ	イタリア語Ⅰ、Ⅱを通して、その文法構造を理解し、作文力を養うことで言語運用につなげる。後半部であるイタリア語Ⅱでは、引き続き文法事項を学習し、数多くの練習問題に取り組む。また基本構文の理解に基づき、習得した文法や語彙を応用し伊作文に取り組むことで、言語運用能力の向上を目指す。	
	ハングルⅠ	ハングルの入門科目。 ハングルⅠでは、文字と発音の習得をはじめ、助詞や用言の語形変化を体系的に学ぶ。また多様化しつつある韓国語のニーズにこたえるべく、日本語との間にある単語や文、あるいは挨拶表現の異同を学ぶと同時に、隣国のコミュニケーションスタイル、発想方法等にも触れ、異文化の言語を学ぶ楽しさを味わう。	
	ハングルⅡ	ハングルⅡでは、ハングルⅠで習得した基礎知識を背景に、基礎的なコミュニケーション能力を養成する。さらに、日韓の異文化間コミュニケーションの事例等を通して異文化に接するときの心得を身につける。ハングルⅡの修了時点でハングル能力試験5級や簡単な自己紹介と日常的な場面でコミュニケーションが出来ることを目指す。	
	ロシア語	本科目では、文字、発音、文法、語彙等、ロシア語の基本について教える。特に語彙は親しみやすいものに限定し、「狭く、確実に」ロシア語の基礎を固める。また、動画などを活用し、ロシア文化の紹介も実施する。	
	ポルトガル語	ポルトガル語では、文字、発音、文法、語彙等、ポルトガル語の基本について学ぶ。またポルトガル文化についての知見も深めながら、コミュニケーション能力を磨くことで運用能力の向上を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語・デジタルコミュニケーション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	デンマーク語	デンマーク語は、デンマーク語の基本的な文法・語彙・熟語の習得、および会話の練習を目的とするが、同時にデンマークの文化や習慣などについても広く学ぶ。英語と同じゲルマン語派に属するデンマーク語を学ことで英語を見直す機会にもつなげる。子どものころから親しんできたアンデルセン童話なども一部教材とし、楽しみながら学ぶことを目指す。	
	スウェーデン語	口頭練習を通じてスウェーデン語の発音の基礎を身につけるとともに、簡単なコミュニケーションができるようになることを目標とする。またスウェーデンの文化や習慣等についても随時紹介する。	
	ハンガリー語	ハンガリー語ではハンガリー語の初歩を身につける。ハンガリー語は、フィンランド語などと同じくウラル語族フィン・ウゴル語派に属し、人名・住所の順序が日本語と同じであったり、助詞のような接尾辞・後置詞を用いたり、文法的に親しみやすい面がある。言語学・日本語教育などを志す人をはじめ、ひろく言葉に関心を持つ人にとっては、インド・ヨーロッパ語と異なるウラル語の特徴を知ることには大きくプラスになる。映画・音楽などハンガリーの文化についても知識を得る。	
	フィンランド語	フィンランド語では、文字、発音、文法、語彙等、フィンランド語の基本について学ぶ。またフィンランド文化についての知見も深めながら、コミュニケーション能力を磨くことで運用能力の向上を目指す。	
	アラビア語	本科目では、国際社会で求められているアラビア語を実用会話の形で学ぶ。文字、発音、文法、語彙、のみならずアラビア語の背景にある文化や歴史、イスラーム世界においてのみならず、世界におけるアラビア語の重要性について広く学ぶ。本科目で得た知見が将来国際社会で活躍する時の力強い武器となることをめざす。	
	ラテン語	本科目では、古代ローマ帝国の公用語であり、その後中世、近代を通してヨーロッパ文明の基礎となってきたラテン語の初歩的な文法を学ぶ。活用表、辞書を引きながら、簡単なラテン語のテキスト(Caesar Nepos等)を非常に時間をかけてでも読めるようになることを目指す。	
	総合実習A（インターンシップ）	本科目は、本学が認めるインターンシップ(就業体験)によって、会社や仕事の実態を体験的に学習し、職業観や勤労観を育むことを目的とする。その研修時間数が60時間以上120時間未満のもので、実習内容、実習先企業などからの報告書、学生が大学に提出するレポートなどをもとに単位を認定する科目である。	
	総合実習B（インターンシップ）	本科目は、本学が認めるインターンシップ(就業体験)によって、会社や仕事の実態を体験的に学習し、職業観や勤労観を育むことを目的とする。その研修時間数が60時間以上120時間未満のもので、実習内容、実習先企業などからの報告書、学生が大学に提出するレポートなどをもとに単位を認定する科目である。	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語・デジタルコミュニケーション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	総合実習C（インターンシップ）	本科目は、本学が認めるインターンシップ(就業体験)によって、会社や仕事の実態を体験的に学習し、職業観や勤労観を育むことを目的とする。その研修時間数が60時間以上120時間未満のもので、実習内容、実習先企業などからの報告書、学生が大学に提出するレポートなどをもとに単位を認定する科目である。	
	総合実習D（インターンシップ）	本科目は、本学が認めるインターンシップ(就業体験)によって、会社や仕事の実態を体験的に学習し、職業観や勤労観を育むことを目的とする。その研修時間数が60時間以上120時間未満のもので、実習内容、実習先企業などからの報告書、学生が大学に提出するレポートなどをもとに単位を認定する科目である。	
	総合実習E（インターンシップ）	本科目は、本学が認めるインターンシップ(就業体験)によって、会社や仕事の実態を体験的に学習し、職業観や勤労観を育むことを目的とする。その研修時間数が60時間以上120時間未満のもので、実習内容、実習先企業などからの報告書、学生が大学に提出するレポートなどをもとに単位を認定する科目である。	
	総合実習F（ボランティア）	本科目は、本学が認めるインターンシップ(就業体験)によって、会社や仕事の実態を体験的に学習し、職業観や勤労観を育むことを目的とする。その研修時間数が60時間以上120時間未満のもので、実習内容、実習先企業などからの報告書、学生が大学に提出するレポートなどをもとに単位を認定する科目である。	
	総合実習G（ボランティア）	本科目は、本学が認めるインターンシップ(就業体験)によって、会社や仕事の実態を体験的に学習し、職業観や勤労観を育むことを目的とする。その研修時間数が60時間以上120時間未満のもので、実習内容、実習先企業などからの報告書、学生が大学に提出するレポートなどをもとに単位を認定する科目である。	
	総合実習H（ボランティア）	本科目は、本学が認めるインターンシップ(就業体験)によって、会社や仕事の実態を体験的に学習し、職業観や勤労観を育むことを目的とする。その研修時間数が60時間以上120時間未満のもので、実習内容、実習先企業などからの報告書、学生が大学に提出するレポートなどをもとに単位を認定する科目である。	
	総合実習I（ボランティア）	本科目は、本学が認めるインターンシップ(就業体験)によって、会社や仕事の実態を体験的に学習し、職業観や勤労観を育むことを目的とする。その研修時間数が60時間以上120時間未満のもので、実習内容、実習先企業などからの報告書、学生が大学に提出するレポートなどをもとに単位を認定する科目である。	

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部英語・デジタルコミュニケーション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	総合実習 J（ボランティア）	本科目は、本学が認めるインターンシップ(就業体験)によって、会社や仕事の実態を体験的に学習し、職業観や勤労観を育むことを目的とする。その研修時間数が60時間以上120時間未満のもので、実習内容、実習先企業などからの報告書、学生が大学に提出するレポートなどをもとに単位を認定する科目である。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

